

御陵の風

校長 西岡 浩一 （文責:教頭 藤井 浩彦）



御陵中「校訓」

◆2学期がスタートして3週間が過ぎました

9月3日(月)の始業式では、校長先生より次のような話がありました。

夏休みに大きな事故もなく、今日元気な姿を見られることはとてもうれしいことです。また、夏休み中に地域のボランティアにたくさんの生徒が参加してくれたこと、本当に感謝します。2学期は、大きな行事もありもっとも充実する学期です。3年生にとっては進路を決定していく大切な時期でもあります。それぞれにしっかり頑張っ
てほしいです。なお、10月18日は、御陵中学校の研究発表会です。みなさんの素晴らしい授業の中でアピールする絶好の機会です。1学期以上に当たり前のことを
当たり前に頑張るつつ、自分で自分を褒められるような学期にしたいものです。

最後にイチロー選手の言葉「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ
行くただひとつの道だと思っています。」を胸に、一人一人が小さいことを積み重
ね、素晴らしい2学期にしていきたいと思います。

9月4日(火)は夏休み課題テスト。9月10日(月)～12日(水)まで、2年生は鹿児島への修学旅行でした。9月15日(土)の午前中は、生徒全員が校区内の各地域の「地域清掃」に参加し、午後からは、昨年度まで「友愛セール」として行っていた内容をリニューアルし、名称を「GORYOマルシェ」としてPTAが主体となって行いました。朝9時から行った地域清掃では、どの地区の生徒も指示された場所の草取りや清掃を黙々と行いました。GORYOマルシェでは、保護者の方々が「子ども達が笑顔で楽しい時間になるように!」という願いを込めて、6月頃から準備をされてきました。当日生徒達も、販売やゲーム等の手伝いを行い、保護者と生徒が一体となったイベントとなりました。協力していただいた保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

9月21日(金)は、中体連新入大会へ向けての「選手激励会」を行いました。その中で、右に書いているある卒業生の言葉や姿勢をもとに、挨拶、マナー、ひたむきさ、一生懸命さ等の大切さについて話をさせていただきました。御陵中全員の健闘を心から祈っています。



【地域清掃の様子】



【GORYOマルシェの様子】

9月・10月の主な行事

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
9	26	水	おはよう運動 部活動中止	10	7	日	区大会(バスケ)
	27	木	おはよう運動 部活動中止		13	土	区大会(バスケ・バレー)
	28	金	中間考査 おはよう運動		14	日	区大会(バレー)
	29	土	区大会(サッカー・野球)		16	火	1・2年合同集会
	30	日	区大会(サッカー・野球・ソフト)		18	木	研究発表会
10	1	月	3年生学力診断テスト		25	木	文化祭[まどかびあ]
	6	土	区大会(サッカー・野球・ソフト・バスケ・剣道) 筑前陸上大会		29	月	生徒会4役立候補者受付
					30	火	デートDV教育講演会[2年生]

他人のせいにせず、言い訳をせず、努力をすること・・・

彼は今、大学4年生・・・彼が中学校に入学してきたときは、小柄なかわいらしい中学1年生だった。小学校まではサッカーをしていたので、中学校でもサッカー部に入る予定であったが、悩んだあげくバレー部に入った。バレー素人の彼は、毎日毎日1年生ながら、言われた練習に黙々と取り組んだ。球拾いも誰よりも声を出して頑張った。入部して2ヶ月のある日の練習試合。誰よりも応援を頑張っていた彼を私はベンチに呼び、「サーブ、試合で打ってみるか?」と言うと、「はい!お願いします!」と目をキラキラさせて答えた。緊張しながら打ったサーブは残念ながらミスとなり相手に得点が入った。ベンチに戻った彼は「すみませんでした」と私に謝り、悔しそうに涙を流した。バレーを始めて2ヶ月の彼がミスしても当たり前と思っていた私は、「こんなに悔しがるなんて・・・この子は見込みがあるな」そう思った。真面目に練習に取り組む彼は日に日に上手になっていった。

2年生の夏、3年生が引退し、私は彼をキャプテンに指名した。キャプテンとなりさらに練習に打ち込む彼・・・朝練習には、毎日1番に来た。チームメイトが誰も来ていなくても時間前に一人でネットを立て、すぐに練習し始める。あるとき、彼の母親は「そんなに早く行かなくても・・・。先生も迷惑するよ。」彼は「だって、少しでも早く行って練習したい!誰よりもうまくなりたい!強くなりたい!勝ちたいんだ!」強くしっかりと答えた彼を母親は頼もしく見守り、彼のためにもどこまでも応援に徹しようと考えた。

どんなにきつい練習でもどんなに厳しい練習でも、彼は絶対に弱音を吐かなかった。それどころか周りを鼓舞しチームを盛り上げた。練習試合の昼休みも、素早く昼食をとったかと思うとコートに戻り練習を始める。練習に対する姿勢も一番素晴らしかったが、彼の素晴らしいところは、他のチームの試合の審判や準備・片付けも率先して取り組むところだった。常にチームメイトの模範であった。キャプテンでエースとして出場した3年生最後の夏(そのときの身長は162cm)は筑紫区大会4位、筑前地区大会ベスト8という結果であった。彼は、言うまでもなく号泣していた・・・

高校は、「福岡県で一番バレーの強いところ。日本一を目指しているところに進学したい」と私立のバレー強豪校に進学した。高校でも、その真面目さとひたむきさ、思慮深さ、気配り力を監督に評価してもらい、2年生のとき「マネージャーとして頑張っしてほしい」と言われた。選手としてではなくマネージャーとして・・・戸惑う彼であったが、ひたすらにその仕事に徹した。3年生になりインターハイに出場した彼の高校は、ついに全国初優勝を果たした。そのあとの国体、春高バレーも優勝し「三冠」を達成した。後日、彼の高校の監督が全国優勝の裏にある彼の活躍を私に教えてくれた。日々のチームに対する献身的な態度はもちろんのこと、大会中は対戦相手のビデオを夜中まで見て研究し、データを分析し監督に伝えるという大きな仕事をしていた。たとえ選手でなくても、チームのために貢献することの意味と自分の役割を彼はわかっていたのだ。現在、大学4年生の彼は、「学生コーチ」としてチームのメンバーを考え、戦術を考えチームを勝利に導く役割を担っている。また、全日本女子チームのアシスタントコーチとして、まだ学生であるにも関わらず合宿等に参加している。来年、別の大学の大学院でバレーボールのコーチングをさらに勉強し、ゆくゆくはプレミアリーグや大学の指導者として頑張っていきたいと考えている。

高校時代には、大会が終わるといつも電話をくれて試合の報告とお礼を言ってくれていた。時間があるときは、後輩の指導に来てくれたり、お土産をもって私に会いに来てくれたりした。現在彼は大学生活を関東で送っているため、福岡にはなかなか帰ってはこれないが、時々電話で近況を報告してくれる。そんな律儀な彼に電話をしてみた。「今日、選手激励会で、御陵中の生徒に話をするんだけど、中学生に伝えたいことは何?」しばらく悩んだ彼がこう答えた。

「試合に出るとか、出ないとか・・・うまくできるかできないとか・・・いろいろ考えるかもしれないけど、まずは、与えられた自分の役割を精一杯果たすことが大事だと思う。それが、チームだし、みんなと戦うということだと思う。それが自分を伸ばすことにつながると思う。どんな状況であれ、他人のせいにせず、言い訳をせず、努力することが大切だと思う。」

私の身が引き締まる思いであった・・・彼は、きっと最高の指導者になっていくに違いない。